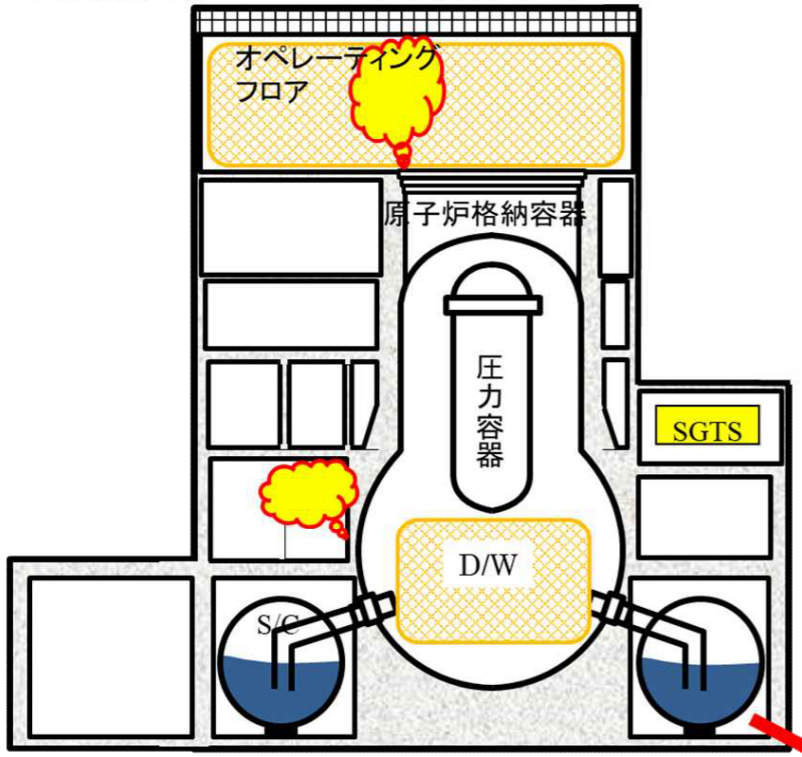
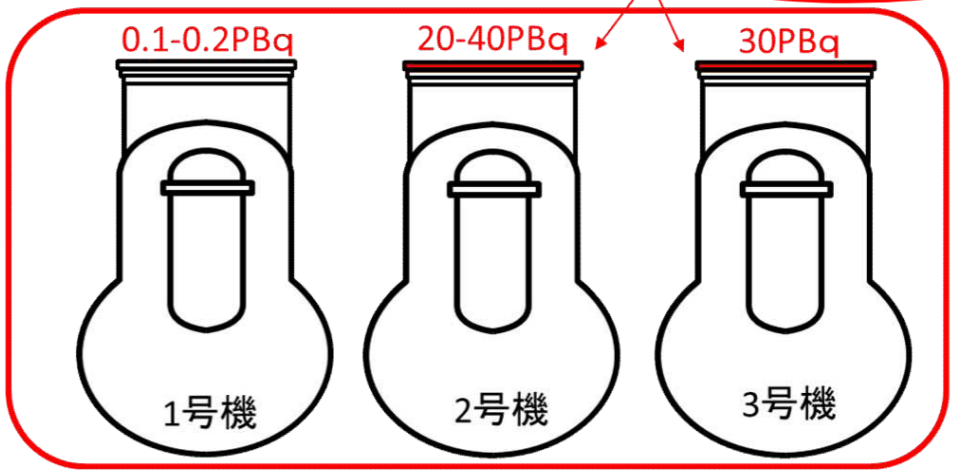
東電福島第一原発１号機～３号機オペレーティングフロア及びシールドプラグ付近の放射線量と２、３号機シールドプラグ下面における大量のセシウムの存在

15PBq※2　大気環境側への移行分

シールドプラグ下面における大量の放射性物質の存在

710PBq※1
1-3号機のセシウム137の総放射能量





1-3号機原子炉建屋内等に留まるセシウム137は概算で以下の通り。

710－(430＋15)＝265PBq

これは1-3号機インベントリー約37%が留まっている可能性がある。

これまでの調査で、3号機のシールドプラグ裏面には概算で約30PBq相当のセシウム137の付着が確認されている。

また2号機についても約20－40PBq相当のセシウム137の付着が確認されている。特に2号機は水素爆発等の影響がないため、主にオペフロ内のセシウム137による線量が高い傾向にある。

一方、1号機のシールドプラグ裏面でのセシウム量は約0．1－0．2PBq程度。

430PBq　吸着塔など汚染水側への移行分

※1：福島第一原子力発電所1～3号機の原子炉停止時の放射性物質（ヨウ素131、セシウム137）の量について（平成23年4月14日原子力安全・保安院）
※2：原子力安全に関するIAEA閣僚会議に対する日本国政府の報告書（平成23年6月）

出典：原子力規制委員会 第89回特定原子力施設監視・評価検討会「資料3 東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・分析に係る中間とりまとめのポイント」（2021年3月22日）より岩渕友事務所作成

2021年5月17日 参議院決算委員会提出資料②　日本共産党 岩渕友